

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
(公 印 省 略)

令和 6 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 6 年度農作物病害虫発生予報第 15 号を発表したので送付します。

令和 6 年度農作物病害虫発生予報第 15 号

令和 7 年 3 月 4 日
徳 島 県

I. 果樹
果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生時期 平年並
発生量 平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) 昨年の予察灯誘殺数は、勝浦町では、ツヤアオカメムシは 7 月まで平年に比べて多く推移したが、8 月以降は平年に比べて少なく推移した。チャバネアオカメムシは 8 月まで平年に比べて多く推移したが、9 月以降は平年に比べてやや少なく推移した。また、上板町では、ツヤアオカメムシは 8 月まで平年に比べて多く推移したが、9 月以降は平年に比べてやや少なく推移した。チャバネアオカメムシの誘殺数は、10 月まで平年に比べて多く推移したが、11 月は平年並となった(表 1)。

表 1 勝浦町及び上板町における各種カメムシの予察灯への誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]							[チャバネアオカメムシの誘殺数]						
月	勝浦町			上板町			月	勝浦町			上板町		
	2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年		2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年
4	173	1	9	1555	2	19	4	45	1	4	105	1	6
5	1789	5	266	2116	13	192	5	969	5	106	631	13	64
6	1228	7	375	1207	7	77	6	657	0	82	1350	9	55
7	668	19	274	1363	1	75	7	3105	6	318	2043	6	217
8	105	236	621	318	40	101	8	1258	343	868	1919	164	257
9	76	177	425	129	192	144	9	590	355	622	364	252	183
10	48	92	348	24	503	146	10	81	33	203	63	1	23
11	13	121	30	7	309	16	11	3	36	1	0	4	0

(2) 2 月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11 地点×2 か所調査)では、4 地点で越冬を確認した。越冬成虫数は 0.2 頭／㎡であり、平年(3.5 頭／㎡)及び前年(成虫確認地点数は 10 地点、越冬成虫数は 15.7 頭／㎡)に比べて低い越冬密度であった。なお過去 10 年で最も低い越冬密度であった。

(3) 高松地方气象台が 2 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

II. 野菜

冬春トマト

疫病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が13.3%、発病度が0.7)。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 窒素質肥料を過用すると茎葉が軟弱となり発生しやすくなるので、肥培管理に注意する。
- (2) 多湿環境は発病を著しく助長するので、施設内が過湿にならないよう十分に換気を行う。
- (3) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 病原菌は気孔から侵入するので、薬剤散布は気孔の多い葉の裏側を重点的に行う。特に、下葉には丁寧に散布する。
- (5) 病原菌が侵入してからごく短期間で発病するので、発生を認めたら散布間隔を短縮して、集中的に薬剤散布を行う。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が12.6%、発病葉率が0.5%)。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の湿度を下げる。
- (2) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

葉かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が2.9%、発病度が0.1)。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の湿度を下げる。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 病斑は主に葉裏に形成されるので、薬液は葉裏にも十分付着するよう丁寧に散布する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)(令和6年11月5日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が42.9%と、平年(50.3%)並の発生であるが、寄生葉率は17.9%と、平年(5.1%)に比べて高い。
- (2) 高松地方气象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ナス

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が13.3%、発病果率が0.2%)。
- (2) 高松地方气象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位の低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の湿度を下げる。また、灌水過多にならないよう注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花弁などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、発病葉率が1.0%と、平年(9.3%、0.2%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方气象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

すすかび病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(53.8%)並の発生であるが、発病葉率は1.7%と、平年(7.4%)に比べて低い。
- (2) 高松地方气象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が 25℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の湿度を下げる。また、灌水過多にならないよう注意する。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。なお、本県では SDHI 剤のボスカリド剤及びペンチオピラド剤で耐性菌が確認されている。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2 月第 6 半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 3.1%、寄生葉率が 0.0%)
- (2) 高松地方气象台が 2 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2 月第 6 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 33.3%と、平年(23.1%)並の発生であるが、寄生葉率は 2.7%と、平年(1.2%)に比べてやや高い。なお、被害果は認めていない(平年同時期は被害果率が 0.2%)。
- (2) 高松地方气象台が 2 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類(主にタバココナジラミ)(令和 6 年 11 月 5 日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 2 月第 6 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 80.0%、寄生葉率が 25.6%と、平年(51.0%、9.9%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方气象台が 2 月 27 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.6%、寄生葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春キュウリ

べと病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が22.2%、発病葉率が7.2%と、平年(35.6%、6.3%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の湿度を下げる。また、灌水過多にならないように注意する。
- (2) 肥料切れや着果過多などで樹勢が衰えた場合に激発するので、肥培管理に注意する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。薬剤散布は、葉裏を重点的に行う。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(46.9%)並の発生であるが、発病葉率は9.6%と、平年(4.5%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 罹病葉は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

褐斑病

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が35.7%、発病葉率が4.4%)。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

ば平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続く等、十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の湿度を下げる。
- (2) 肥料切れや窒素過多などは発病を助長するので、肥培管理に注意する。
- (3) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤散布は、葉の裏側を重点的に行う。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。なお、本県では、アゾキシストロビン剤、ボスカリド剤、ジェトフェンカルブ・プロシミドン剤に対する耐性菌が確認されている。

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が6.7%、発病果率が0.2%)。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位の低温で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。悪天候が続いたりして十分な換気ができない場合には、暖房機のファンを作動させて、ハウス内の湿度を下げる。また、灌水過多にならないよう注意する。
- (2) 朝夕の急激な冷え込みは発生を著しく助長するので、適切な温度管理に努める。
- (3) 発病果や花卉などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (5) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が7.8%、寄生葉率が0.4%)。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬剤が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(21.1%)並の発生であるが、寄生葉率は3.2%と、平年(1.9%)に比べてやや高い。また、被害果の発生圃場率が11.1%、被害果率が0.7%と、平年(1.1%、0.1%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

コナジラミ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%と、平年(13.5%)に比べてやや高いが、寄生葉率は0.8%と、平年(0.5%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

冬春ホウレンソウ

べと病

1) 予報の内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が11.3%、発病度が0.5)。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 徳島県では、本病原菌レース1～13まで確認されているため、品種はレース1～13に抵抗性があるものを利用する。
- (2) 抵抗性品種でも突然発生することがあるので、発病好適時の栽培では、薬剤の予防散布を行う。
- (3) 平均気温が8～18℃で曇雨天が続くと、多発しやすい。発生が多くなると防除が困難になるので初期防除に努める。薬剤は予防的に、また下葉や葉裏にもよくかかるよう丁寧に散布する。
- (4) 罹病株を圃場に放置すると伝染源になるので、発病株は見つけ次第抜き取って速やかに処分する。
- (5) 葉が繁茂して軟弱になると被害が多くなるので、肥培管理に注意する。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第5・6半旬の巡回調査では、発生圃場率が18.2%と、平年(36.1%)に比べてやや低いが、1株当たり寄生虫数は0.0頭と、平年(0.1頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

冬春イチゴ

灰色かび病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が6.4%、発病果率が0.2%)。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 気温が20℃位で多湿の時に発生しやすいので、施設内が過湿にならないように換気を図る。
- (2) 発病果は伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (3) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が3.2%、発病葉率が0.1%)。また、発病果の発生圃場率が8.3%と、平年(3.2%)に比べてやや高く、発病果率は0.2%と、平年(0.2%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 古葉を早めに除去し、葉裏にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (3) 罹病した果実や茎葉などは伝染源になるので、できるだけ早く摘み取って、ハウス外で処分する。
- (4) 耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が58.3%、寄生株率が13.7%と、平年(20.3%、3.4%)に比べて高い。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が50.0%と、平年(56.5%)並の発生であるが、寄生葉率は6.9%と、平年(12.5%)に比べてやや低い。
- (2) 高松地方気象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 葉裏にも十分な量の薬液が付着するよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アザミウマ類

1) 予報内

発生量 平年並(前年よりやや少ない)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 2月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、寄生花率が1.4%と、平年(22.4%、1.0%)並の発生である。
- (2) 高松地方气象台が2月27日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並と予想されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
- (2) 花器、新葉、葉裏、葉の重なった部分などに集まる習性があるので、それらの部分に薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

Ⅲ. その他

- 1. 施設栽培において暖房機の最低気温の設定値を下げ過ぎると、低温性病害の発生を著しく助長する恐れがあるので、注意する。
- 2. 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないよう注意する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所

URL： <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。